

令和4年度 卒業式 答辞

寒さも次第に緩み、やわらかな光が包み込む、春の訪れを感じられる季節となりました。本日は、私達卒業生のために、このような盛大な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。お忙しい中、ご臨席くださいましたご来賓の皆様、卒業生を代表して心より御礼申し上げます。

5年前、私たちはこの体育館で入学式を迎えました。私は、人見知りする性格で、友達ができるのかと不安な気持ちで入学式に参加したのを覚えています。しかし、いざ入学してみるとウェルカミングパーティーや体育大会、高専祭などの行事を通じて自然と友達ができました。また、兄の人脈もあり指導寮生や部活の先輩とも気が付けば仲良くなっていました。1年生の高専祭では、ビンゴ大会で高級たわしを当て、友達や先輩に祝われたことを今でも覚えています。

一方で、勉学では、専門教科に苦戦し、定期試験前には必死になって勉強をしました。放課後、友達と教室や図書館に残って勉強したり、試験の前日には夜遅くまで勉強することもありました。また、先生方には理解が追いついていない問題を解説していただきました。友達や先生方から助けていただいたことで、5年間の試験や課題を無事に乗り越えることができました。

両親には学費をはじめ様々な面でサポートをしてもらいました。寮生活では、たくさんの仕送りをしてもらいましたし、初めての寮生活で不安だった時には「困ったことがあったら連絡しておいで」という言葉にとっても助けられました。両親は今でも私の心の支えとなっています。今までありがとうございました。そして、これからも温かく見守ってください。

また、高専生活の5年間を共に過ごした友人たちにはとても感謝しています。体育大会や高専祭などの行事はもちろん、ケンカをしたこと、悩みを相談したこと、夜遅くまでゲームをしたことなど数えきれないほどの大切な思い出ができました。

しかし、3年前からは新型コロナウイルス感染症の流行で、学内行事や日常生活で自粛することが増えました。コロナがなければ学生最後の体育大会に参加することができたのではないかと、研修旅行が延期されたりなくなったりしなかったのではないかと、もっと友達と気軽に遊びに行けたのではないかなどと悔しい思いもしました。しかし、だからこそ、私は参加できる行事や友達と遊ぶ時間をより大切にするようになりました。コロナによって大きく変わった日常も私にとって高専生活の大切な思い出の1つです。

思い返してみると長いようで短い5年間でした。私達が今日、卒業式を迎えることができたのは、たくさんの人に支えられてきたからです。これからはこの和歌山高専で学んだことや経験を生かし、立派な社会人となるように励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今までお世話になりました、校長先生をはじめとする諸先生方、友人、家族、在校生の皆さんに、改めて感謝いたしますとともに、和歌山高専のさらなる発展を願いまして、答辞とさせていただきます。

令和4年度卒業生代表 知能機械工学科 小林 駿斗